

【2020年度:No.1】		(年間別評価) 2月
Ⅲ 2020年度教育活動の重点目標		コメント
1. 学力の充実・向上		
(1) Google Classroomやフォームを利用した積極的な家庭学習指導を促進し、またGoogle MeetやZoomによるオンライン授業も活用し、より効果的かつ効果的な授業の実施を進めていきます。そのために、教員間の授業見学や教科内を中心とした相互交流を活性化させていきます。	4	6月までの休校期間に行ったオンライン授業でのノウハウを蓄積し教員間で共有したことで、1月から2月の入試期間におけるオンライン授業も効率よくすべての学年で(一部実技系教科を除き)問題なく行われた。
(2) 思考力を重視する学力観に基づき、定期考査とレポートなどの課題提出のバランスを追求し、適切な定期考査のあり方を提案します。	4	オンライン授業においては特に、双方向授業と課題提出についてはバランスをとり、効果をあげることができた。
(3) 定期考査の作問力を向上させるために、教科内での検討機会を設けて定期考査を通じての学力向上を目指すとともに、考査の厳正なる実施のために、より現状に適した定期考査のあり方を提案します。	3	定期考査を通じての学力向上を模索し、作問を工夫すること、現在50分～80分の試験時間の見直し、検討を併せて行った。
(4) すべての教室に、短焦点プロジェクター付きホワイトボードへの取り換えを終了、プロジェクターと連動した効果的な授業内容の創意工夫に努めるとともに、オンライン授業や反転授業と組み合わせた新しい学習環境の構築に努めます。	4	中学校では各自のパソコンを全員が使用しての授業が増えてきており、教員側は多岐にわたって教科特性に基づいた効果的なアプリケーションソフトを使用し、プロジェクターとホワイトボードでの授業効果をあげている。
2. 学習の充実および多様な進路実現・能力開発にむけてのコース・カリキュラム選択		
(1) 今年度から開始される大学入学共通テストにおいて5教科7科目受験する国立希望者140名を目指します。	3	センター出願は280名、受験者233名、うち5教科7科目の国立型での受験116名。出願者数としては十分目標を達成しているが国立型での受験としてはもう一息といったところ(達成率82.9%)。実際の国立出願者数は116名。
(2) センター試験平均75%がボーダーラインであった千葉大学に対応するため、共通テストでもセンター75%相当の得点率を目指します。そのため、マークカードの利用や共通テスト対策講座を実施し、生徒にフィードバックします。	4	共通テスト初年度ということで平均点の予測が難しく、手探りの状態ではあったが、ブレることなく対策模試や対策講座などにしっかりと取り組み準備させることが出来た。
(3) コロナ禍に影響を受ける事のない様、「学習を止めない」をテーマに、オンライン授業の研究を進め、カリキュラムに遅れが出ないよう授業を進める事を徹底します。同時にスタディサプリやスクールタクト等を併用し、自学自習が出来る環境を整えます。	4	4～6月中旬の休校期間も各学年、極力時間割に沿った形で、ライブ配信、オンデマンド配信、課題配信と様々な形で授業を行う事が出来た。進度に関しては例年より進んでいる。1月の入試期間ではこの経験を活かし、コロナ対策として設けた約2週間のオンライン授業では完全に時間割に沿った形で授業を実施し
(4) 英検やGTECなどを学校として推進し、生徒の状況について、担任や学年が把握し、助言できる環境を作り出す。	3	英検の受験率がすまみ、学校ではなく会場受験に移行した。GTECに関しては、運営上の問題があり今年度をもって一旦廃止とするが、次年度以降も外部検定利用入試の研究を進め、積極的に取り入れていきたい。
(5) 高校1, 2年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むようにカリキュラムを検討します。	3	仕事塾を始め、オンラインではあるが外務省の方の講演や、進路講演など各学年で将来の職業に関わる講演会を実施することが出来た。アフターコロナでは引き続き対面での講演会につなげていきたい。
(6) 理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。	3	芝浦工大に在籍する065人および本校女性教諭による「理系女子講演会」をオンラインで実施。生徒には好評。その他、大学からの理系女子対象の講演会、イベント情報を随時進路掲示板に掲示したのがなかなか参加にはつながらなかった。
(7) コロナ禍の影響で2ヶ月前倒しとなった芝浦工大推薦に対して、生徒に不利益にならないよう、また希望進路が実現できるよう適切な指導をします。	4	推薦試験も順調に行われ、大学からの事前学習に例年より早くから取り組めるなど、生徒にとってはメリットがある試験であった。ただし、その後の卒業試験での取り組みが思わしくなく、課題として残った。
(8) 休校中にもオンラインでの種々の進路行事や面談などを実施し、生徒が自分の希望の進路を見出すうえでの支援を行います。	4	臨時休校中もオンライン面接を行うなど3回の生徒面談を中心として、保護者面談や必要に応じて都度面談を行い多様な進路実現に向けての意思疎通を図っている。海外進学も含めて個々の進路に応じた対応をしている。さらに多様な進路実現が達成できるよう、委員会でもカリキュラム研究を行っている。
(9) 面談や進路行事を通してカリキュラムやコース選択を提示し進路実現へとつなげます。	4	学校再開後、適宜面談を行い、生徒の希望に沿ったカリキュラム選択につなげることが出来た。
(10) 今年度から始まる大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜に対応し、「主体性・多様性・協働性」などを育てるとともに、各自のポートフォリオでの記録を促すなど、多様な入試方式への対応を促します。	4	ポートフォリオやデジタル調査書などが本格化しておらず評価の難しいところではあるが、現時点でやるべき事はすべて実施できている。
(11) 現在使用しているスタディサプリも含めて各種サービスの研究し、本校生徒にとって最適な教材を検討します。	3	学年や教科によって利用頻度に差があり、全校としてしっかりと取り組み切れているとはいえないが、昨年度比で考えても確実に利用頻度は上がっている。リニューアルされたベジックウィングやClasi、キュビオも含めてより研究を進めていきたい。
(12) 中学を含めて、各クラスが活性化できるクラス編成を検討します。	3	現状のクラス運営自体には全く問題はないが、GSクラス、文理混合クラス、グローバルクラスのあり方など深い議論まで発展させることが出来なかった。
(13) 種々の英語関連講座などを通じて英語4技能の能力を高めるとともに、外国の文化・価値観や国際的な問題を理解して、さまざまな場で活躍できるグローバルな人材育成に努めます。	3	講座自体は開講し、参加生徒の評判は上々であるが、なかなか参加する生徒の数が少ない。必要性のアナウンスが足りていないように感じる。
3. 生徒活動及び生徒指導の推進		
(1) 学校生活における基本的なコロナ対策の行動指針を生徒に示し、感染予防を心がけ行事や部活動に取り組んでいけるように指導を行います。	3	部活動は顧問の先生に感染対策をこたあるごとに呼びかけ、活動時間や更衣場所も考慮して活動した。
(2) 電車やバス、駅などの公共の場で、自分たちのことだけを考えるような行動を慎み、周囲に迷惑をかけるような行動がなくなるように、教員の協力のもとHRをはじめ全校集会や学年集会などで指導を行います。	3	コロナのなかで、集会も始業式や終業式はリモートで行われたので、集会における注意喚起はなかなか
(3) ネット関係が変化している中、ネット上での問題が起きないように集会などでネットでのルールやマナーなどを生徒に徹底させるように注意喚起を促します。	3	毎年何件かSNS絡みの事件が起こるのですが、今年もSNS関係の事件が発生しその都度指導をした。来年度より高校生のスマホの利用規定を見直すことが話し合われているが、SNSの使用が今までより多くなることで、事件が多発しないようしっかり指導をしていきたい。
4. 健康な学校生活の推進		
(1) 生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の助言をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、AED・心臓蘇生法・エビソンの講習会を引き続き実施します。	4	健康診断、予防接種など生徒や教職員において重要な取り組みを実施できた。AED・心臓蘇生法・エビソンの講習会は広く呼びかけ、新任教諭は全員履修できた。感染症予防について周知徹底するとともに、引き続き健康で安全に学校生活を送ることができるよう配慮した。
(2) 「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力しメニューが生徒の健康と安全に配慮したものになっているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に関しても同様を確認していきます。	4	カフェテリアで販売する弁当をホームページで予約申し込みできるようにした。メニューやアレルギー表示も併記しており、食事に關する意識を高める働きかけとなった。今後も、成長期に必要な鉄分、カルシウム、ビタミン類を摂取できるような栄養面で偏りのないメニューを提供していくよう尽力する。また、校内で販売している飲料や食品が生徒に適したものか、業者の協力を得ながら確認した。
(3) 相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き教員向けの研修会や事例検討会を実施します。	4	学年担当者から定期的に生徒情報を供与して、スクールカウンセラーと連携しながら、適切な指導やサポートを行った。また事例検討会を実施し、教員の抱えている悩み事や解決へのノウハウなどを共有した。
(4) 中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。	4	学校生活の様々な場面で「心」を育てる取り組みをした。
(5) 感染症拡大防止のために、学校生活の様々な場面を想定し、対策を講じます。	3	感染症拡大予防のため、情報の収集と周知、必要な物品の調達など、状況に応じて対策を講じた。
5. 情報教育の推進		
(1) 休校時に実施したオンライン授業の総括を行います。ここで得た知見を学校内での取り組みを共有し、通常授業の授業改善に繋げられるように情報発信を行います。	4	各部署において、オンライン授業での取り組みを総括することができた。また、そこで得た知見を通常の対面授業でも利用することで新しい生活様式における授業のスタイルを共有することができた。
(2) ワイード、校内のWi-Fiを活用した教育を推進します。また、中学生に関しては今年度より導入するスクールタクトを利用した教育の実践についても推進します。	3	校内のWi-Fi機能が強化されたことにより生徒が教室にて全員ネットに接続しても問題がなくなった。これにより、スクールタクトを始め双方向型のアプリ、クラウドベースのアプリが授業時にも活用できるようになった。スクールタクトの授業実践についてはまだまだ1年目であり実践が進んできているところである。今後もお互いの実践を共有しより良いものとしていくことが必要である。
(3) GoogleClassroom、Googleフォーム、Googleドライブを始めとしたG Suiteの活用を推進します。授業内での活用だけでなく、校務での活用についても検討を進めます。	4	校務においてG Suiteの活用を推進することができた。生徒の欠席連絡、健康観察を始めデータを収集することにおいては教員が手作業で行うことは無くなった。これにより教員の業務改善にG Suiteを役立てることができた。来年度も引き続き、ペーパーレス化などG Suiteを活用していただけることを広げたい。
6. 読書習慣の形成と視聴覚教育の推進		
(1) 生徒がより読書に意識的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、様々な読書を促す取り組みを実施します。	3	今年度はピリオパトルをオンラインで実施。各教室で落ち着いた状況の中、多くの生徒が参加することができた。
(2) ICT化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、中学棟、高校棟のワイードの活用など、より効果的な授業支援環境の整備をはかります。	4	ホール棟内教室・中央棟内4実験室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードを設置した。教員に対してICT研修を行うことができた。

7 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進	
(1) 防災、危機管理の体制を再検討し、コロナ禍に影響を受ける事のない災害時の避難連絡体制を構築します。また、日常から防災訓練を定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全教職員、生徒に周知徹底をはかります。	3
(2) PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。	2
(3) 式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。	3
8 入試広報活動の充実・募集形態の研究	
(1) 学校説明会において本校が望む生徒像をアドミッションポリシーに従って明確に示し、また入試形態を簡潔に説明していきます。また、オンライン説明会などWeb等を用いた説明会や相談会を企画して実施していきます。	3
(2) 本校の教育理念を明確にし、本校の教育の特色をわかりやすく盛り込んだ学校案内の増補版を作成し広報活動に生かします。	4
(3) SSH指定校としてのサイエンス教育や海外研修や短期留学をはじめとするグローバル教育はもちろんのこと、探究活動をはじめとする本校の教育の特色を、外部にPRすべき内容を精査し受験生獲得に向けた広報活動を実施します。	3
9 事務室によるハード・ソフト両面にわたる学校運営支援体制の深化	
(1) 一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。	4
(2) 学年主任会・教科主任会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。	3
(3) ホール棟8教室・中央棟内4実験室への超短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置を完了させるのみならず、校内関係分室と協同して教員用ICT環境の更新を実現させます。	4
(4) 3年目となるスーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、研究部と連携して正確かつ確実に進めます。	3
(5) 新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた緊急施策のため新たに必要となる予算を早急に措置し、法人担当部署とも連携のうえ、速やかに執行できるようにします。	4
10 生徒の理解が深まる授業・研修活動の充実	
(1) オンライン授業を含めて効果的な授業方法を検討し、授業力の向上を推進します。	4
(2) 授業カリキュラムに関して、生徒の発達過程・理解を考慮して、再検討をはかるとともに、評価方法に関する検討も実施します。	3
(3) 現状で可能な主体的・創造的な学習活動やICT教育を推進するために、全教員・教科会での共有をはかります。	4
(4) 「SK学習ルーブリック」を基に、各教科の評価基準に即した観点の設定を試みるなど、生徒が各自の学習参加の現状分析や課題の提示ができる環境づくりに努めます。	3
(5) 高大接続改革や新カリキュラムの開始を踏まえ、今後求められる学力観を理解し、それらを養える授業づくりのための研究を進めます。	3
(6) 生徒の日常の学習状況がはかれ、また生徒の学習の指針となる定期試験の作問を心掛け、また教科会においても作問力向上につながる取り組みを目指します。	4
11 ホームページを中心とした広報活動の充実	
(1) ホームページのリニューアルを今年度中に行います。外部の方、本校関係者ともに必要な情報にたどり着きやすいホームページを作成します。	4
(2) SNSを活用して、中学・高校入試の情報や学校生活などの情報を発信していきます。	3
12 スーパーサイエンスハイスクールとしての実践の充実	
(1) 探究授業、中高一貫探究プログラムの教育課程の開発を行い、CSC (Creative, Studios, Communicative) 能力の育成をはかります。	4
(2) 課題研究の指導法、評価法を研究に取り組み、共有します。また、教員対象の指導研究会(主体的・探究的授業、ICTの活用)を実施します。	4
(3) 今年度休止のSSHサイエンスツアー、千葉大・芝浦工大留学生との交流に代えて、英語ポスタープレゼンテーション教育やオンラインでのグローバル化教育を取り入れ、グローバル人材の育成をはかります。	3
(4) 芝浦工業大学と連携して、先取り授業や理系女子育成プログラムを実施します。また、外部諸機関と連携して、他大学・研究所見学、特別講座を実施します。	4
(5) 実験・研究の実施に当たっては、従来よりのゴーグル着用、安全実施報告書の事前提出に加えて、COVID-19感染対策としてのフェイスマスクや防護カーテン、実験人数制限等の防護措置を必要に応じてとり、実施します。	4